

## 九州工業大学の近況（H30.1～）について

九州工業大学学長 尾家 祐二

- (1) **2018 年春、未来を想う（H30.4.27）**（別紙①）
- (2) **平成 30 年度 入学式 を挙**行（別紙②）
- ・ H30.4.4 @北九州ソレイユホール、イイズカコスモスコモン
  - ・ 1660 (220) 名（学部：1030 (164) 名、大学院 630 (56) 名 ※（女子学生数：内数）
- (3) **平成 29 年度 学位記授与式 を挙**行（別紙③）
- ・ H30.3.23 @北九州ソレイユホール
  - ・ 1538 (999) 名（学部：952 (999) 名、大学院 586 (56) 名 ※（女子学生数：内数）
- (4) **大学院生命体工学研究科（若松キャンパス）オープンキャンパスを**開催（別紙④）
- ・ 39 の研究室が一般公開され、131 名の来場者
- (5) **コスタリカ初の人工衛星「Irazu」が ISS から放**出（別紙⑤）
- ・ H30.5.11 本学の宇宙環境技術ラボラトリー（趙 孟佑 教授）が開発と試験、安全審査等を支援したコスタリカ初の人工衛星「Irazu」が国際宇宙ステーションより放出
- (6) 『**Robo Cup Japan Open 2018**』で**優勝・準優勝**（別紙⑥）
- ・ H30.5.3-5@岐阜県大垣市ソフトピアジャパン
  - ・ 学生プロジェクト「Hibikino Musashi@Home」が参加し、OPL(Open Platform League,自分たちで作ったロボットで出場する無制限級)で**優勝**、DSPL(Domestic Standard Platform League,TOYOTA HSR で出場する標準機リーグ)で**準優勝**。また、RoboCup の活動を通じたホームロボットの人工知能に関する本チームの研究開発成果が高く評価され、**人工知能学会賞**が授与
  - ・ H30.6 にカナダのモントリオールで開催予定の『RoboCup 世界大会』に参加予定（昨年度「優勝」）
- (7) **THE 世界大学ランキング日本版 2018 で 24 位に**ランクイン（別紙⑦）
- ・ H30.3.28 に発表された英国の高等教育専門誌 THE(Times Higher Education)によるランキングで、全国 700 を超える大学中、**総合 24 位**（前回 28 位）にランキング。国立大学で 17 位、九州では 3 位
- (8) **人事制度改革マラソンの H29 の**取り組み報告（別紙⑧）
- ・ 「安心と誇り」を持って働ける環境を自らの手で作り、大学のよりよい変革に繋げていくための人事制度の改革。H29 年度の中間報告会。
- (9) **キックオフシンポジウム『明日につなげる女性研究者支援 -Kyutech Project-』**開催（別紙⑨）
- ・ H30.3.19@戸畑キャンパス
  - ・ 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」のスタートとして開催。学内外から 86 名が参加。



**(10) 宇宙開発利用大賞「外務大臣賞」を受賞** (別紙⑩)

- ・ H30.3.20 本学で実施してきた「国際連合と連携した宇宙能力構築のための留学生事業」が、平成 29 年度第 3 回宇宙開発利用大賞の**外務大臣賞**を受賞

**(11) 学内合同企業説明会を実施** (別紙⑪)

- ・ H30.3.5-6@戸畑キャンパス、飯塚キャンパス
- ・ 参加企業数は 686 社(のべ 915 社)で、この企業数は大学の中でもトップクラス

**(12) 学生プロジェクト成果発表会を開催** (別紙⑫)

- ・ H30.3.2@戸畑キャンパス
- ・ H29 学生プロジェクトに取り組んだ 19 の学生プロジェクトによる発表

**(13) 「BIRDS2 Satellite Project」衛星完成披露記者会見を開催** (別紙⑬)

- ・ H30.2.26@戸畑キャンパス
- ・ 5 月末に JAXA へ引き渡しを終え、今夏の打ち上げ、放出 (国際宇宙ステーションより) を目指す

**(14) 北九州市とスポーツ振興等に関する包括連携協定を締結** (別紙⑭)

- ・ H30.2.22@北九州市役所本庁舎
- ・ 本学をはじめとする北九州市内の 9 大学で「北九州市とスポーツ振興等に関して連携・協力するための包括連携協定」を締結

## □ 国際交流一覧【大学間（学長レベル）の組織的交流など】

- ・国際交流校のサンティエンヌ国立高等鉱山学院（仏）の教員が来学し、ダブルディグリープログラムなどについて協議（H30.4）
- ・プトラ大学（馬）より、学生 20 名が来学し 2 週間のワークショップ、施設見学など研修を実施（H30.4）
- ・安部総理主催のブータン王国首相を迎えての晩餐会に尾家学長が出席（H30.4）  
※本学が取り組む BIRD 2 プロジェクトにおいて、ブータン初の人工衛星の開発を支援
- ・フランス・ナンシーにてロレーヌ大学（仏）との国際合同ワークショップを開催（H30.4）
- ・国際交流協定校の国立台湾科技大学を訪問（情工院長）し、2018 年の国際連携推進について協議（H30.3）
- ・生命体工学研究科にてさくらサイエンスプログラムを実施、アジア諸国から 48 名を招へい（H30.3）
- ・ラジシャヒ大学（バングラデシュ）の学長一行が来学し、今後の交流について協議（H30.3）
- ・ベンハ大学（エジプト）の学長一行が来学し、大学間での学術・学生交流などに関する趣意書に署名し、学術交流協定の締結に向け協議（H29.12）

## □ 受賞一覧

### 【学生】

- ・日本鑄造工学会で、奨励賞を受賞（工学部 4 年 山本 麻祐子、工学府 M1 浅成 勇介）
- ・国際会議(AROB2018)で、 Student Paper Award を受賞（工学府 M2 Amine Ildrissi）
- ・可視化情報全国講演会で、「ベストプレゼンテーション賞」を受賞（情報工学府 M1 池田拓士）
- ・ME とバイオサイバネティックス研究会(MBE)研究会で、研究奨励賞を受賞（生命体工学研究科 M2 重本昌也）

### 【団体・大会】

- ・第 88 回九州インカレ 男子 110mH で大会 2 連覇（工学府 M1 尾崎俊祐）
- ・第 36 回久住山岳滑翔大会（グライダー）で優勝（工学部 2 年（航空部）二宮ひかる）
- ・「九州アプリチャレンジキャラバン 2017 コンテスト」で最優秀賞を受賞（情報工学部 学生グループ）
- ・第 5 回ソレノイドコンテスト（タカハ機工）で作品（クスリッピー）が「いいね!賞」を受賞（情報工学部 4 年福田静生、情報工学府 M1 森剛史、情報工学府 M2 酒井文也）
- ・第 14 回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会 85kg 級で個人 2 位（工学部 4 年 福田匠磨）

### 【教員・職員】

- ・宮崎県都城市から「都城市中心市街地中核施設の整備」に関し感謝状が贈呈（工学研究院 吉武哲信教授）
- ・エルゼビア社から論文の査読に対する証明書が贈呈（工学研究院 酒井浩教授）
- ・溶接学会通常総会で「溶接学会論文賞」を受賞（情報工学研究院 二保知也准教授、堀江知義教授）
- ・H30 科学技術分野の文部科学大臣表彰『若手科学者賞』を受賞（生命体工学研究科 川原知洋准教授）
- ・日本物理学会第 73 回年次大会で第 23 回論文賞を受賞（工学研究院 中村和磨准教授）
- ・経済産業大臣表彰「第 7 回ものづくり日本大賞」優秀賞を受賞（工学研究院 恵良秀則教授、河部 徹准教授）

2018年4月27日

## 2018年春、未来を想う

九州工業大学学長 尾家祐二

今年も、新入生を迎え、新たな1年が始まりました。学部および大学院前期・後期課程合わせて1660名の学生が入学しました。大変嬉しいことです。その中には、昨年度よりも多い16の国と地域から来日した59名の留学生も含まれています。遠い国々から来てくれた人達を歓迎する意味で、今年も、末尾に添付しているパネルを作成して、入学式会場に掲示しました。本学のキャンパス内に多くの留学生が行き交い、より多様性に富むキャンパスになることを期待しております。また、キャンパス外での学習の機会もますます広がっており、昨年度は、延べ人数で600名を超える学生が海外研修を経験しました。

さて、4月11日ブータン王国のツェリン・トブゲー首相をお迎えして行われました安倍内閣総理大臣夫妻主催の晩餐会に招待され、総理大臣公邸に参りました。ブータン王国は、約80万の人口を有する国で、現在5名の留学生が本学の大学院で学んでいます。その中の4名が、ブータン王国初となる超小型衛星の開発に取り組んでおり、その衛星は今年打ち上げ予定です。トブゲー首相は、晩餐会の御挨拶の中で、九州工業大学が衛星開発を支援している件について言及され、並々ならぬ関心を示されました。ブータン王国は、伝統的な社会・文化や民意、環境にも配慮した「国民の幸福」の実現を目指し、国民総生産（GNP）ではなく、国民総幸福量（GNH）を重要視している国です。そのような国の未来を切り拓く科学技術者の育成に貢献できることは大変光栄なことです。

私たちが思い描く未来は、想像をはるかに超えたものになることがしばしばです。司馬遼太郎氏は、1973年にモンゴルに行き、「モンゴル紀行」（司馬遼太郎著「街道をゆく5 モンゴル紀行」朝日文庫刊）を著しています。それは、大変な苦勞をして、新潟からハバロフスク、イルクーツクを経由して、ウランバートルに至る紀行です。新潟で「モンゴルへは、おそらく今後もじかにゆけることはあるまい。ソ連を通らなければならない」と記しています。そして、その当時の人口は130万程度であったと、書かれています。昨年10月にモンゴルの首都ウランバートルへ行き、モンゴル国立大学等を訪問しました。いまでは、成田から直行便があり、人口は300万程度になっています。現在、モンゴルからの5名の留学生が本学で学んでいます。そして、昨年モンゴルの留学生が本学で、モンゴル国初の衛星を開発し、宇宙放出に成功しました。

予測困難な未来ですが、それは私たちの可能性や価値を見出そうとする試み、新たな価値を生み出そうとする試みに関わる夥しい活動の延長上にあるのではないのでしょうか。本学は、大学のこれまでの枠に捕らわれない活動も実践し、教育研究活動の価値を高め、その価値を社会の中で共有する活動を行い、未来を創る人材の育成と新たな知の創造を続けます。今後も皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い致します。



# ENTRANCE CEREMONY SPRING 2018



## 平成30年度 入学式を挙りました

更新日:2018.04.05

平成30年度入学式を、平成30年4月4日(水)10時からイイツカコスモスコモン(飯塚市飯塚)、14時から北九州ソレイユホール(北九州市小倉北区)において挙りました。

戸畑・飯塚・若松の3キャンパスに迎えた学部・大学院合わせて1,660名の新入生が、九工大生として新たな一歩を踏み出しました。

尾家祐二学長からの告辞では、本学の成り立ちや歴史、工業系人材として想像することの大切さ、また、生み出した技術が人々に理解されるには共感をもって受け入れられることも重要であることなどが述べられ、「知を好む人たちが集まる場所であるこの大学で、様々な学習機会と環境を活用し、様々な事を試み、意義ある大学生活を過ごして欲しい」と新入生への激励の言葉が贈られました。

また、両会場において、「鳳龍奨学賞」(学業成績優秀者)、課外活動等に功績のあった団体等に対する学生表彰および技術賞・語学賞の表彰があわせて行われました。

### 【平成30年度入学者数】

- 学部(1030名)
  - ・工学部 564名
  - ・情報工学部 466名
- 大学院博士前期課程(574名)
  - ・工学府 267名
  - ・情報工学府 187名
  - ・生命体工学研究科 120名
- 大学院博士後期課程(56名)
  - ・工学府 14名
  - ・情報工学府 14名
  - ・生命体工学研究科 28名

【飯塚会場】



学長告辞



新入生代表による宣誓



片基順享市長による祝辞



交響楽団による祝賀演奏



入学生のスナップ

【北九州会場】



式典の様子



新入生代表による宣誓



梅本北九州市副市長による祝辞



学生表彰



メンネルコールによる学歌斉唱

2018年4月4日

平成30年度入学式告辞

九州工業大学 学長  
尾家祐二

ご入学おめでとうございます。

春爛漫の今日、ここに入学式を挙げるにあたり、栄えあるこの日を迎えられました皆さんに、心からお祝いを申し上げます。そして、これまでのご努力に敬意を表します。九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、この上ない喜びであります。御列席の御家族の皆様におかれましても、お喜びのことと拝察致します。教職員を代表してお祝い申し上げます。

これから皆さんが学ばれる九州工業大学は、1909年に開校した私立明治専門学校を前身としています。創立者は、安川敬一郎氏です。わが国の産業の礎となった北九州及び筑豊地域で安川電機の設立など様々な産業を興された経済界の重鎮です。

明治時代の日本は、産業面、経済面において、当時の世界の大国からは、大きく遅れをとっていたため、国家を支える人材育成が必要でした。安川先生は、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである。」という信念から巨額の私財を投じ、我が国の産業の振興を支える技術者を育成する明治専門学校を創設されました。

安川先生は明治専門学校の教育と研究を、東京帝国大学総長であられた山川健次郎先生に託されました。山川先生は、開校式において、明治専門学校を「技術二通ジテイルジェントルマンヲ養成スル学校デアル」と宣言され、品格と創造性をもつ人材を輩出することを目指されました。この山川先生の志は、「技術に堪能なる士君子」の養成という本学の建学の理念として、100年以上の歴史を越えて脈々と伝えられ、現在に至っています。新入生の諸君は「技術に堪能なる士君子」という言葉をこの場で覚えて頂きたいと思います。

明治専門学校は、その後1949年に国立九州工業大学となり、2004年から国立大学法人

九州工業大学となりました。この間に、飯塚市に情報工学部、北九州市若松の北九州学術研究都市に大学院生命体工学研究科を設置し、2学部3学府・研究科、学生数約5700名を擁する、わが国有数の個性豊かな工学系大学となり、現在に至っています。

それでは、この機会に、これから入学後に、大学もしくは大学院において学び続けるうえで大事な二つのことについてお話をしたいと思います。それは、想像力と共感に関することです。

最初は想像力に関するお話です。今や、AI（人工知能）が様々な分野に活用され、私達の働きかたや社会活動にも大きな影響を及ぼすと言われていています。AIを動かしている今の計算機の原型ともなる、最初の電子式の汎用計算機ENIACが米国ペンシルベニア大学で開発されたのは1940年代で、今から70年ほど前のことです。その計算機の基本的な仕組み作りにも大きな影響を与えたのは英国のアラン・チューリングでした。彼の伝記が「イミテーション・ゲーム」というタイトルで2014年に映画化されましたので、ご覧になった方もいるかもしれません。現在の計算機は、彼の計算機科学者としての偉大な功績によるものです。そのチューリングは、まだ、計算機の黎明期の1950年において早くも人工知能について考察し、「計算機と知性」というタイトルの論文の中で次のように述べています。(Alan Turing, "Computing Machinery and Intelligence," Mind 49, pp.433-460, 1950、高橋昌一郎著「ノイマン・ゲーデル・チューリング」(筑摩選書)から引用)

「機械は考えることができるか？」という問題を考察してみよう。そのためには、「機械」と「考える」という言葉の意味を定義することから始めるべきであろう。

私たちは、いつの日か、機械が純粋に知的な領域で人間と競争するようになることを望んでいる。けれども、何から始めるべきなのだろうか？これはかなり難しい決定である。多くの人々は、例えば、チェスをするような非常に抽象的な概念から始めるのが最善だと考えている。

恐るべき想像力です。いまでは、AIが囲碁、将棋の世界トップレベルの棋士と対戦し、勝利したことなどが話題になりますが、60年以上も前に、産声をあげたばかりの計算機の

未来を、このように想像した人達がいたことは大変な驚きです。想像することの出発点は、対象となるものや状況への強い関心もしくは知的好奇心です。そして、その想像により理解も深まります。想像するためには、多くの知識、知恵が必要です。書籍、経験および他者から多くの知識、考え方を学ぶことは大変大切です。皆さんには、是非知的好奇心をもって、多くを学び、豊かな想像力を養ってほしいと思います。

もう一つ大切なことは共感することです。マクニールはその著「世界史」（中公文庫）において、人の歴史の出発点を、まさに、文化によって進化が遂げられはじめた時としています。そして、私たちは、「人が社会の中で学んだものの力によってはるかに律せられるようになった」ことによって文化的に進化してきました。私たちは、社会の中で学び、成長してきたのです。これに関連して、ここで、もう一つ紹介したいことは、私たちの脳の働きです。私たちの脳には、他人の行為のシミュレーションによってその行為の意味や意図の理解に深く関与する、ミラーニューロンという細胞があるそうです。マルコ・イアコポーニの著である「ミラーニューロンの発見」（早川書房：原著「Mirroring People – The new science of how we can connect with others」）において「自分ではない別の誰かが苦悩や苦痛にさいなまれているのを目にすると、ミラーニューロンが働いて私たちにその表情を読み取らせ、他人の苦悩や苦痛をそのとおりに感じさせる」と紹介しています。そして、「共感是我们の社会生活に根本的な役割を果たしている。共感の力によって、私たちは感情や経験や要望や目標を共有できる」と述べています。共感することは、社会で学び、成長するためにも大事な要素です。だからこそ、私たちの脳はそれを助けてくれているのでしょう。さらには、これから皆さんが学ぶ技術が社会で活用され、浸透するためには、それらの技術が人々に理解され、共感を持って受け入れられることが必要になることも理解してください。

本学では、正課の教室における学習以外に、様々な学習の機会を提供しています。全く異なった環境において感じ、考え、学ぶ機会を提供するために、海外研修を積極的に推進しています。昨年度はおよそ 600 名の仲間がそのような体験をしています。異なる文化を受容する、異なる意見を受け入れ、自分の意見を伝えるなど、皆さんが、グローバル化した社会の中で、専門的な知識やスキルを活かし続けるための能力を身につけて欲しいと考えていま

す。さらに、正課外の学習として、皆さんがチームを作り、ものづくりを企画立案し提案することができる学生プロジェクトもあります。審査で合格すると、本学と本学同窓会である明専会殿等から資金援助を行います。学生諸君がロボット、車、ロケットなどの製作に取り組んでいます。様々な知識を有機的に繋げ、問題を解決する能力が養われます。皆さんには、このような学習機会を是非活用して欲しいと思います。

最後となりましたが、チューリングは、先ほど紹介しました論文の中で、「私たちは、ほんの少し前の未来しか見渡せない。しかし、私たちが試みなければならないことがたくさんあることは、明らかである」と述べています。入学された皆さんが、健康に十分留意され、知を好む人たちが集まる場所であるこの大学で、様々な学習機会と環境を活用し、様々な事を試み、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされますことを重ねて希望致しまして、告辞と致します。本日は誠におめでとうございます。

## 平成29年度 学位記授与式を行いました

更新日:2018.03.23

平成30年3月23日(金)、北九州ソレイユホールにおいて、平成29年度 学位記授与式を挙行し、学部・大学院(博士前期・後期課程)あわせて1,538名が新たな旅立ちを迎えました。

大学関係者と多くの保護者の皆様が見守る厳粛な雰囲気の中、各学科・専攻の代表者が学位記を授与され、尾家学長は告辞において、「多様性を再認識し、多様な知を集め、学び、今の世界から謙虚に未来を想像し、明るい未来を選択し、その実現に関与してほしい」と卒業生・修了生を激励しました。

卒業・修了した学生が、本学で学んだことを活かし、いつまでも健康で、社会に大いに貢献していただけますことを、職員一同、祈念しております。

### 【学位記授与者】

#### ○学部

- ・工学部 539名
- ・情報工学部 413名

#### ○大学院博士前期課程

- ・工学府 258名
- ・情報工学府 183名
- ・生命体工学研究科 119名

#### ○大学院博士後期課程

- ・工学府 9名
- ・情報工学府 2名
- ・生命体工学研究科 15名



尾家学長による告辞



学位記授与の様子



学位記授与の様子



学部・大学院博士前期課程代表による答辞



メンネルコールの合唱と交響楽団並びに吹奏楽部による演奏

2018年3月23日

平成29年度3月 学位授与式学長告辞

九州工業大学長 尾家祐二

本日、ここに平成29年度の学位授与式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで卒業生・修了生を物心両面から支えられました保護者の皆様と御家族の皆様のお喜びはひとしおと、衷心よりお祝い申し上げます。

本日、皆さんが、九州工業大学を卒業・修了されるこの機会に、皆さんが活躍する未来と、その未来創造に向けた姿勢について一緒に考えたいと思います。

英国のビジネス誌『エコノミスト』編集部による「2050年の世界-英『エコノミスト』誌は予測する」(文春文庫)においては、「結局私たちは、すべての情報や新生技術が今後どう使われていくか予測することはできない。だが、それらが、いずれ起こる技術改革の土台として存在するだろうということは分かる」と指摘されています。実際、「電球に明かりを灯すために押し進められた電化が、最終的にはパソコンを含むあらゆる種類の機器に電力を供給するようになったのと同様、センサーネットワークや人工知能、データの大洪水もさまざまに利用されて、それらを創造した者の理解も及ばないことができるようになる」ことでしょう。そこで、私達が、過去から学ぶべきこととして、『エコノミスト』編集部は「私たちは未来に対し、大いに謙虚になるべき」であり、「技術は、めったに人間の思い描いたとおりに進化しない」と指摘しています。未来予測は困難ですが、未来を支える技術の種は今ここにあるとも言えます。そして、今ある技術、今生まれようとしている技術の未来の可能性を謙虚に想像しようではありませんか。

さらに、その続編ともなる英『エコノミスト』編集部「2050年の技術-英『エコノミスト』誌は予測する」(文藝春秋)は、2050年までの世界をかたち作る技術に焦点を当てています。ただ

し、技術の影響は幅広い領域におよび、影響力を及ぼす技術の裾野はきわめて広がっていきます。その中では、SF作家のウィリアム・ギブソンの「未来はすでにここにある。均等に行きわたっていないだけだ」という有名な言葉を引いたうえで、技術は「突然登場するように見えて、実はそうではない」、したがって、「正しい場所に目を向ければ、明日のテクノロジーを今日見ることができる」、それを「エッジケース(限界的事例)」と呼び、「広く普及する前に、特定の集団や国だけで広がってしまう事例」を探ることが重要であるとの指摘がされています。

その分かりやすい例として、21世紀初頭の日本におけるガラケーとケニアのモバイルマネーの普及が取り上げられています。前者については、「2001年に日本ではカメラ付き、カラーディスプレイ付きの携帯電話が当たり前になり普及していた。道案内付きの地図を表示でき、電子書籍、ゲームなどのアプリもダウンロードできた。ジャーナリストやアナリストはそんな電話を見るために日本語でいそしんだ」と紹介し、後者については、「モバイルマネーの普及で長らく世界をリードしていたのはケニアだ。携帯端末同士でテキストメッセージを送り合えるように、簡単かつ瞬時に送金ができるのだ。ナイロビでは携帯電話でタクシー料金が支払えるのに、ニューヨークではそれができないという状況が何年も続いていたほどである」、と述べています。これらは、「他国のシステムとの互換性など気にせずに、創意工夫することができた特殊な状況」であったり「銀行インフラの存在しない空白状態」であったり、それぞれの状況下において、創意工夫された成果です。今も、どこかで、新たな未来の種が芽を出していることでしょう。ただし、それらの価値を高く評価できるのは、それらを最初に創造した人たちであるとは限りません。私達は、そのようなことがどこかで起きていることを謙虚に理解し、どこかで作られた「種」を適切に評価し、芽吹かせ、花を愛で、それを他にも伝えるなど様々な立場で未来創造に関わることができます。

未来を創造する姿勢に関することとして、次のことを紹介したいと思います。昨年、本学が進めている衛星開発プロジェクトの一つである「BIRDS Satellite Project」が、「GEDC Airbus Diversity Award 2017」を受賞したことをご存知でしょうか。2017年は、18ヶ国45件の応募があり、エンジニアリング教育の世界的団体であるGlobal Engineering Deans Council(GEDC)の年度総会にて、最終候補3件のプレゼンテーションが行われ、「BIRDS Satellite Project」が見事、最終選定されました。この賞は、世界的航空機メーカー、エアバス社がスポンサーとなり、工学教育に多様性をもた

らす成功例を対象とする Award で、今回からは UNESCO（ユネスコ：国連教育科学文化機関）が後援しています。Birds Satellite Project では、5つの超小型衛星が開発され、宇宙に打ち上げられました。それらはガーナ、ナイジェリア、モンゴル、バングラデシュそして日本の5カ国の本学の学生諸君が開発したものです。大変嬉しい出来事でしたし、これに関わった学生の皆さん、教職員に改めてお祝いを述べ、敬意を表したいと思います。そして、私は、この表彰の中で触れられている大変興味深い次のことを紹介したいと思います。すなわち、「多様性（ダイバーシティ）はビジネスの成功においてますます重要な測定基準となって」おり、「2017年は企業幹部の69%が多様性と一体性を重要な問題と位置づけており、その数は2014年の59%から増加」しているという点です。未来を創造する活動において、多様な知を集め、活用することが大変重要になっており、そのことを理解している人も増えてきているということが分かります。

<http://www.airbusjapan.com/single-jp/detail/-6f76c42171/>

<http://space.airbus.com/newsroom/press-releases/en/2017/10/gecd-airbus-diversity-award-2017.html>

多様性が重要であることについては、様々な指摘があります。ノーベル経済学賞受賞者であるアマルティア・セン氏は「アマルティア・セン講義—グローバリゼーションと人間の安全保障」（ちくま学芸文庫）の中で、「過去数千年にわたる世界の進歩は、交易、旅行、思想・知識・芸術・文化の拡散を促すグローバルな相互作用活動によって形成され」たことを指摘しています。

今後、皆さんが関わる技術が、様々な社会活動の基盤になり、影響を与えることになります。皆さんには、是非、人、組織等の多様性を再認識し、多様な知を集め、学び、今の世界から、謙虚に未来を想像し、明るい未来を選択し、その実現に関与して欲しいと思います。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、今後活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。

## 大学院生命体工学研究科 オープンキャンパス 2018を開催しました

更新日:2018.05.22

平成30年5月19日(土)、大学院生命体工学研究科(若松キャンパス)においてオープンキャンパスを開催しました。

今年度は、39の研究室が一般公開され、131名の来場者がありました。

1階ロビーに研究室展示ブースを設け、研究内容については本学学生が説明を行い、興味を持った研究室を訪問するという形式で行われました。来場者からは、どの研究内容も興味深く、説明も分かりやすかったと好評でした。

また、当日は入試説明コーナーも設置され、受験希望の学生からの質問を受けました。



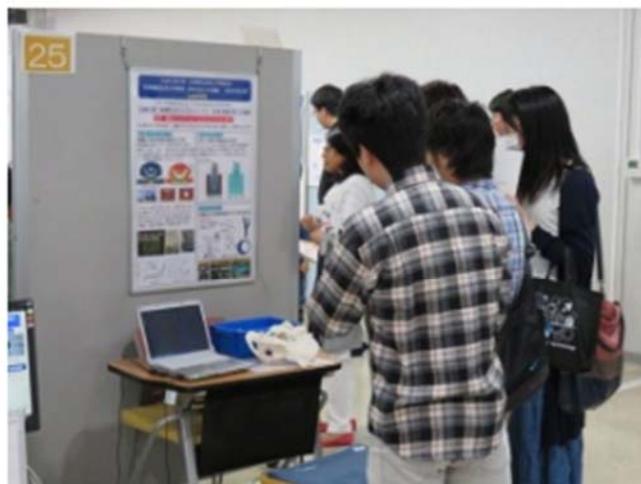
研究室展示会場の様子①



研究室展示会場の様子②



研究室展示会場の様子③



研究室展示会場の様子④

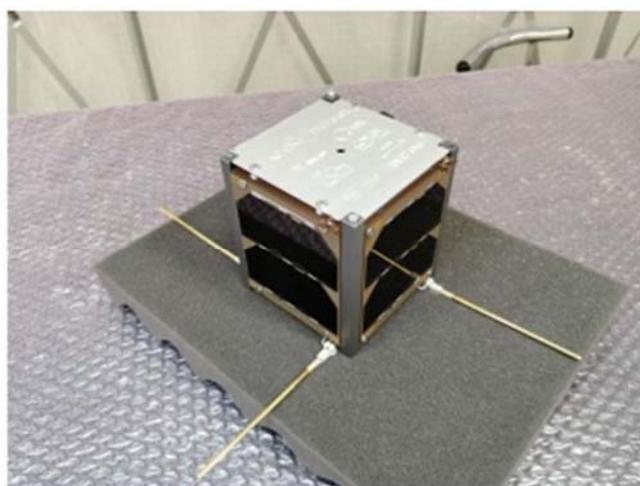
## コスタリカ初の人工衛星「Irazu」が国際宇宙ステーションから放出成功しました

更新日:2018.05.15

本学の宇宙環境技術ラボラトリーが開発と試験、安全審査等を支援したコスタリカ初の人工衛星「Irazu」が平成30年5月11日(金)19:30に国際宇宙ステーションより無事、放出されました。

当日は本学戸畑キャンパス内でパブリックビューイングが行われ、コスタリカの留学生がメンバーとともに、放出の様子を見守りました。宇宙空間への放出の様子がJAXAウェブサイトにてライブ中継され、その後の電波受信でも九州工業大学内に設置した地上局にて5月12日1:20に無事、受信を行うことが出来ました。

人工衛星「Irazu」はこの後、メインミッションであるコスタリカ熱帯雨林の観測データや天候、土壌、樹木成長に関するデータ収集を目的とする通信衛星の技術実証を進めていくこととなります。



Irazu衛星フライトモデル



放出の瞬間喜ぶ、コスタリカ留学生



会場の様子

## 『RoboCup Japan Open 2018』でHibikino-Musashi@Homeが優勝・準優勝・人工知能学会賞の受賞を果たしました!

更新日:2018.05.09



Hibikino-Musashi@Home集合写真

平成30年5月3日(木・祝)～5日(土・祝)岐阜県大垣市ソフトピアジャパンで開催された『RoboCup Japan Open 2018 @ホームリーグ』に、生命体工学研究科の学生が中心となって結成し、同科の田向 権准教授が率いる、“Hibikino-Musashi@Home”チームが参加しました。

@ホームリーグは、家庭やオフィスといった、人間の生活空間で人間と協力して働くサービスロボットの性能を評価するリーグです。ロボットには、人間と自然な意思疎通を行い、周辺の環境を認識し、自ら行動を計画し実行するための、高い人工知能の能力が求められます。@ホームリーグはRoboCupの中では最も巨大なリーグであり、かつ、企業からの注目度も極めて高く、トヨタやソフトバンクのロボットも標準機として採用されています。

Hibikino-Musashi@Homeは、OPL(Open Platform League,自分たちで作ったロボットで出場する無制限級)と、DSPL(Domestic Standard Platform League,TOYOTA HSRで出場する標準機リーグ)へと参戦し、OPLで優勝、DSPLで準優勝という快挙を成し遂げました。また、RoboCupの活動を通じたホームロボットの人工知能に関する本チームの研究開発成果が高く評価され、人工知能学会賞が授与されました。

また、2018年6月にカナダのモントリオールで開催予定の『RoboCup世界大会』の厳しい事前審査を通過、参加が内定しており、今後ますますの活躍が注目されます。

Hibikino-Musashi@Homeは、九州工業大学・明専会学生創造学習支援プロジェクト「安川電機プロジェクト」や、連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース(カーエレ・カーロボ連携大学院)より支援を受けております。本学では、同窓会である明専会や企業と連携し、学生グループによる創造的なプロジェクトに対し、その活動を強気にサポートしています。



OPLへ出場した Exi@



DSPLへ出場した TOYOTA HSR



RoboCup Japan Open @Homeリーグ全体集合写真



表彰式の様子



Open Platform League 優勝賞状



Domestic Standard Platform League 準優勝賞状

## THE 『世界大学ランキング 日本版2018』 にランクインしました

更新日:2018.03.30

昨年からはじまった世界大学ランキングで知られる英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」による日本版ランキング2018が発表され、今回も九州工業大学がランクインしました。

このランキングは、日本の大学における「教育力」に焦点を当てたもので、「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」という4ピラー(分野)と13メトリクス(項目)で構成され、大学の教育力を総合的に評価し、各メトリクスは、学生数などの大学情報、競争的資金の獲得件数などの引用情報、高校の教員・高等教育機関研究者・企業の人事担当者からの評判調査情報をもとに算出されています。

本学は、総合順位で全大学中『24位(前回28位)』、国立大学の中では『17位(前回19位)』、九州の大学の中では『3位(前回4位)』となりました。また、「教育成果」でも全大学中『29位(30位)』となるなど、4分野の全てにおいてランクインしました。



## 人事制度改革マラソン(H29年度)の最終発表を行いました

更新日:2018.03.23

平成30年3月16日(金)に本学戸畑キャンパスの未来型インタラクティブ教育棟において、人事制度改革マラソン(平成29年度)の最終発表を行いました。

事務職員が「安心と誇り」を持って働ける環境を自らの手で作り、大学のよりよい変革を継続的に進めていくためスタートした人事制度改革マラソン。今回、【CDPチーム】【コミュニケーションチーム】【人事制度チーム】に加え、中間発表後に発足した【マーケティングチーム】の4つの検討チーム毎に、今年度の総括と次年度以降実施予定の施策や体制などを発表しました。

今回の最終発表には、尾家学長、那須人事課長も陪席し、尾家学長からは「期待した以上に深い議論が成されている。様々な提案もあり、来年度以降の具体的な施策の実施に期待している。」とのコメントがありました。



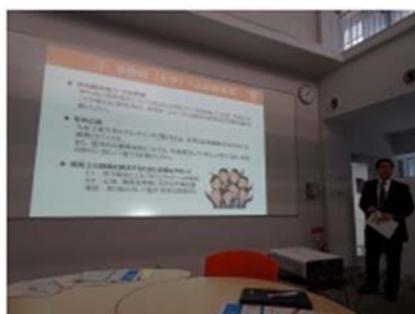
CDPチームの発表



コミュニケーションチームの発表



人事制度チームの発表



マーケティングチームの発表



尾家学長による講評

## キックオフシンポジウム『明日につなげる女性研究者支援 -Kyutech Project-』を開催しました

更新日:2018.03.23

男女共同参画推進室は、3月19日(月)に、キックオフシンポジウム『明日につなげる女性研究者支援 -Kyutech Project-』を開催しました。これは、本学が今年度、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択され、その事業のスタートとして実施したもので、学内外から全86名の参加がありました。

文部科学省科学技術・学術政策局の石丸室長と科学技術振興機構プログラム主管の山村氏よりご挨拶を頂いた後、まずは、京都産業大学ダイバーシティ推進室長の伊藤教授より「日本の学術分野における男女共同参画の現状と課題」というテーマでご講演頂きました。続いて、安河内男女共同参画推進室長より本学の取組内容の報告があり、その後、電気通信大学の由良副学長よりご講演と本学へのアドバイスとして「ダイバーシティ推進に向けた取組事例紹介-九州工業大学様へのアドバイスに向けて-」というテーマでお話を頂きました。

様々なデータに基づいた説明や他大学事例など、具体的で興味深い講演内容だったため、質疑応答の時間には活発に質問が挙がるなど、非常に充実したシンポジウムとなりました。



京都産業大学の伊藤教授よりご講演



質問に答える学長の様子



電気通信大学の由良副学長よりご講演と本学へのアドバイス



学内外から多くの参加者が集った会場の様子

## 宇宙開発利用大賞『外務大臣賞』を受賞しました

更新日:2018.03.22

本学で実施してきた「国際連合と連携した宇宙能力構築のための留学生事業」が、平成29年度第3回宇宙開発利用大賞の外務大臣賞を受賞しました。

この賞は、宇宙開発利用の推進において大きな成果を収める、先導的な取り組みを行う等、宇宙開発利用の推進に多大な貢献をした優れた成功事例を表彰するもので、本学の受賞は平成25年度の第一回宇宙開発利用大賞「経済産業大臣賞」に続き、2回目の受賞です。

平成30年3月20日(火)に東京で行われた授賞式では、副工学研究院長の中尾基 教授が本学の代表として「表彰状」「トロフィー」を受け取りました。授賞式には、安倍晋三内閣総理大臣、林芳正文部科学大臣、世耕弘成経済産業大臣らがプレゼンターとして登壇し、安倍総理大臣から「無限の可能性を秘めた、この宇宙分野で次なる偉大な一歩を踏み出すのは皆さんである、と確信しています。どうか、人類の夢と希望をのせて、次の時代を切り拓いていただきたい。」と祝辞と期待の言葉が贈られました。

### 【取り組みの概要】

「国際連合と連携した宇宙能力構築のための留学生事業」は、工学研究院先端機能システム研究系の趙孟佑教授らが中心となって進めている取り組みです。途上国・新興国における宇宙開発人材のニーズに応えるため、国連宇宙部と連携して、大学院宇宙工学国際コース(SEIC)を設置し、持続可能な宇宙開発事業等をゼロから立ち上げられる人材を育成することで、宇宙空間の平和利用の推進・拡大に貢献することを目指しています。

### 【受賞のポイント(選考委員会講評)】

国連宇宙部と連携し、国際的に宇宙分野での人材育成に貢献した点を評価。  
宇宙技術が国際貢献の一つの重要なツールと認められたことの意義は大きい。



表彰状を授与の様子



受賞の喜びを語る中尾副工学研究院長



記念撮影



本学の展示ブース

## 平成29年度九州工業大学学内合同企業説明会(第5回就職セミナー)を開催しました

更新日:2018.03.09

平成30年3月5日(月)、6日(火)の2日間において、2019年(平成31年)3月卒業・修了予定者(現学部3年生及び大学院博士前期課程1年生)を対象とした学内合同企業説明会(第5回就職セミナー)を、戸畑及び飯塚キャンパスにおいて開催しました。

参加企業数は686社(のべ915社)で、非常に多くの企業様に参加頂きました。参加した学生はスーツに身を包んで関心を持つ企業ブースを訪問し、企業様からの事業概要等の説明を熱心に聞き、メモを取る姿が見受けられました。



会場の様子(戸畑キャンパス)



会場の様子(戸畑キャンパス)



会場の様子(飯塚キャンパス)



会場の様子(飯塚キャンパス)

## 平成29年度学生プロジェクト成果発表会を開催しました!

更新日:2018.03.06

平成30年3月2日(金)、戸畑キャンパス百周年中村記念館において、『平成29年度学生プロジェクト』に取り組んだ19の学生グループによる成果発表会を開催しました。

来賓として、文部科学省高等教育局大学振興課 吉成 竜也課長補佐、ご支援をいただき、一般社団法人明専会 高原 正雄会長、同じくご支援をいただき、株式会社安川電機技術部知的財産担当 石橋 一郎技師長からご挨拶いただき、学生が一年間ひたむきに取り組んだ成果の発表と、デモ機による実演を行うとともに、その評価も実施しました。

また、ご来場いただきました学外の機関を含む多くの皆さまと学生との間で、その成果について、活発な意見交換がなされました。

参加した学生は、今年度の経験といただいた様々な意見を活かし、来年度に向け、知識やスキルをさらに深化させていきたいと、抱負を語っていました。



文部科学省高等教育局大学振興課 吉成氏によるご挨拶



各団体による成果発表の様子



各団体のブース見学の様子



各団体のブース見学の様子



各団体のブース見学の様子



成績発表の様子

## 「BIRDS2 Satellite Project」 衛星完成披露記者会見を行いました

更新日:2018.02.28

現在、マレーシア、フィリピン、ブータン各国と共同で2018年に国際宇宙ステーションから3基、同時に放出を目指している衛星開発プロジェクト(BIRDS2 Satellite Project)の衛星フライトモデルが完成しましたので、報道関係者の方々を対象に、平成30年2月26日(月)、完成披露会を開催しました。

当日はTV局、新聞社各社にお越し頂き、BIRDS2衛星3基の完成報告と衛星の7つのミッションについての説明を行いました。また、実際に完成した衛星3基の公開を行いました。

今後、この3基の衛星は3月後半～4月をめどにJAXAに引き渡しを行い、国際宇宙ステーション(ISS)に運ばれたのちに、日本の実験棟「きぼう」より放出される予定です。



記者会見風景



集合写真



衛星フライトモデル

## 北九州市とスポーツ振興等に関して連携・協力するための包括連携協定を締結しました

更新日:2018.02.23

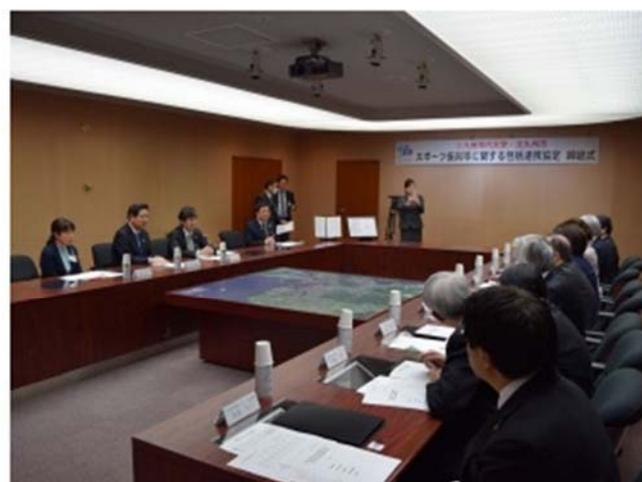
平成30年2月22日(木)、北九州市役所本庁舎において、本学をはじめとする北九州市内の9大学は、北九州市とスポーツ振興等に関して連携・協力するための包括連携協定を締結しました。

この協定締結は、2019年のラグビーワールドカップ日本大会及び2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツ振興等に関するさまざまな連携・協力を行うことで相互に発展・寄与すること目的とするものです。

各国競技団体選手とのスポーツ・文化交流等による異文化に接する機会創出や諸外国学生との交流促進が期待されます。



協定を締結した北橋市長(左から5人目)と尾家学長(左から7人目)、他各大学代表者たち



締結の様子